



受賞おめでとうございます！

渡島管内教育実践表彰 八雲さむいべや祭り実行委員会

2月22日、函館美術館にて、表彰式が開かれ同実行委員会田中建司会長が出席されました。

永年にわたり、「雪」や「寒さ」を活用した、子どもから大人まで楽しめる冬の野外イベント活動を提供し、特に平成26年には町情報交流物産館「丘の駅」のリニューアルオープンに合わせ、規模を拡大して前夜祭・本祭を開催しました。町内外はもとより海外からの観光客も含め1万人を超えるイベントとして成長しており、さらには多数の地元企業からの協賛を受け、全長100mの氷の滑り台やバナナボート「白熊号」をはじめ、八雲町の特産バザーや八雲産のもち米を使った餅つきを行うなど、地域活性化を図るイベントとして取り組んできたことが評価されました。この賞は、これまでに「相沼奴の伝承と文化活動」、「八雲ばやし『どどん鼓座』」などが受賞しており、八雲町では3年連続の受賞となりました。



介護の悩みをみんなで話そう！

熊石介護者と共に歩む会 楽しく縁カフェ

3月5日、ふれあい交流センターくまいし館で、認知症の人と家族、地域住民など誰でも気軽に集い、お茶を飲みながらつろぐ「楽しく縁カフェ」（熊石介護者と共に歩む会主催）が開催され、来場した約40人が漫談や寸劇などを楽しみながら会話に花を咲かせました。はじめに松田紀嗣さんが「熊石今昔物語」と題し、熊石地域の偉人や物語を面白可笑しく紹介し、続いて、佐藤雅幸さんによる津軽弁小話が行われると、軽妙な語り口に会場からは大きな笑いが起こっていました。平井稲子会長は「設立15周年を迎えることが出来たのも地域の皆さんのおかげ。地域に少しでも貢献できるよう活動していきたい」と今後の抱負を話していました。



滑るも楽し！ 転ぶも楽し！

第14回 町民歩くスキーの集い

熊石青少年旅行村で、2月24日、第14回町民歩くスキーの集い（八雲町教育委員会主催）が開かれ、町民ら約70名が参加しました。参加者は入念に準備運動をした後、町教育委員会職員やスポーツ推進委員の指導を受け、熊石青少年旅行村内に設置された2kmの特設コースを周回しました。キャンプ場内の雪深いロッジの脇を通ったり、木々の間を抜けたり、橋を渡るなどのバラエティ溢れ、アップダウンも楽しめるコースで、最初はふらついたり、転んだりしていましたが、徐々に慣れてくるとまっすぐにスキーを走らせるようになり、思い思いに雪深い白銀の世界を楽しんでいました。

